

■ご当地映画（2作品）【北海道・網走ロケ作品】

・北海道・網走のロケ作品を地元のスクリーンで鑑賞することで、映画の力、地域の関わりの素晴らしさに触れます!!

◎網走番外地 南国の対決 (88分/1966年/日本/東映)

*学習室A～C 【10/26】①9:40 【10/27】①9:20

◎監督：石井輝男

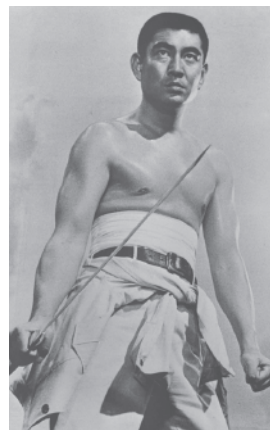
出演：高倉健 町田政則 千葉真一 吉田輝雄 嵐寛寿郎 田中邦衛 由利徹
谷隼人 ほか

◎伊藤一の原案を「大悪党作戦」の石井輝男が脚本・監督し、人気絶頂、高倉健が主演する「網走番外地シリーズ」の第六作!!

舞台は沖縄である。

竜神一家親分の死因に不審を抱いた橋真一は、事故があった沖縄へ飛ぶ。そこでは、竜神一家跡目を継いだ二代目親分が、やくざ一家と手を結んで建設会社を無法に乗っとうとしていた。竜神親分に恩義のある橋は、二代目とやくざ一家を叩き斬り、竜神親分の息のかかったその建設会社の危機を救う。太陽が輝く沖縄一那覇の繁華街、塩谷海岸、ゴザの歓楽街など、美しい風物を現地ロケでとらえて趣向を盛った一篇。主人公橋真一の高倉健は、灼熱の国でたくましい勇姿を見せ、その相手役、粋な殺し屋を東映初出演の吉田輝雄が演じる。また、橋の弟分には千葉真一があたり、「カミカゼ野郎・真昼の決斗」に次ぐ共演。嵐寛寿郎、田中邦衛、由利徹は毎度お馴染みのメンバー。それに、東映期待の若手、谷隼人が加わる。その他、河津清三郎、二本柳寛、沢村謙などのベテランが登場し、大原麗子、三原葉子の女優陣が花を添える。そして、花を探して沖縄まで密航する少年に劇団ひまわりの町田政則が扮し、ギャグとアクションで展開するドラマの中に涙の場面を見せる。

スタッフは、伊藤一の原案を、このシリーズ全作を撮っている石井輝男監督が自ら脚色して演出、撮影を稲田喜一、企画を植木照男、音楽を八木正生が担当している。(総天然色、東映東京作品)



© 東映

☆男はつらいよ 虎次郎忘れな草 (99分/1973年/日本/松竹)

*学習室A～C 【10/26】①14:00 【10/27】①11:10

☆監督：山田洋次

出演：渥美清 倍賞千恵子 松村達雄 三崎千恵子 前田吟 浅丘ルリ子 ほか

☆ほら、逢っている時は何とも思わねえけど 別れた後で妙に思い出すひとがいますね...そういう女でしたよ あれは “運命の女” との恋物語がいまここに始まる!!

北海道網走で旅回りの歌手リリーと出会った寅次郎は、お互いの身の上を語り合う。放浪生活から一転、「まっとうな暮らし」を目指し牧場で働き始める寅次郎だったが、厳しい肉体労働のためあえなく3日でダウン。迎えに来たさくらと柴又へ帰る。するとほどなくリリーが柴又に。二人は歓喜の再会を果たす。とらや一家の温かいおもてなしに触れたリリーは急速に寅次郎を慕い始めるが、ある夜、泥酔してとらやの戸を叩く。懸命になだめる寅さん。しかしリリーは逆上、大粒の涙をこぼしながら去っていく。いったんは突き放してみたものの、寅次郎はリリーの消息を尋ね歩き、アパートを探し当てる。だが、部屋はすでにもぬけの殻。ただあ然と立ち尽くすしかなかった。シリーズ最多出演のマドンナ、浅丘ルリ子演じる歌手・松岡リリーの初登場作品。愉快的ギャグもたっぷりだが、随所に漂うエレジー(哀歌)のトーンが、渋く味わい深い傑作。二人の愛は本作に始まり、シリーズ最終回まで続いていくことになる。

© 松竹



◎映画監督 石井輝男

2005年8月12日に亡くなった映画監督・石井輝男は、1924年東京に生まれ、昭和初期を熱烈な映画少年として過ごしました。東宝を経て新東宝撮影所で助監督となり、成瀬巳喜男、清水宏に従事。1957年『リングの王者 栄光の世界』で監督デビュー。その後、東映・松竹・日活などで活躍しました。

なかでも高倉健主演の東映作品『網走番外地』は、1960年代の世相を反映して大ヒットし、『続 網走番外地』『網走番外地 望郷篇』などシリーズ化され、石井監督で10本、降旗康男監督らの『新網走番外地』で8本の人気シリーズになりました。

その後、石井監督は、1993年つげ義春原作の『ゲンセンカン主人』、98年同じ原作者の『ねじ式』、2001年江戸川乱歩原作の『盲獣vs一寸法師』を監督。生涯で84本の劇場公開作品を遺しました。数々の作品が海外でも高い評価を得て、“キング・オブ・カルト”とも呼ばれました。

ダンディズムに徹して映画一筋に生きた石井輝男監督は、人生の番外地に生きた男とも言えます。

〔株〕石井輝男プロダクション 山際永三

※故石井輝男監督の墓は、オホーツク海を望む網走市潮見墓園にあります(=写真左)

